

クラス番号	616	担当教員名	片山 善博
テーマ	生と死の倫理を考える		
著書・論文 研究課題等	著書：『生と死の倫理－「死生学」への招待－』2DTP 出版、共著『＜居場所＞の喪失、これからの＜居場所＞－成長・競争社会とその先へ＞』学文社、共著、『新時代への源氏学 9 架橋する＜文学＞理論』竹林舎など 論文：「環境哲学の一つのプログラム－自然哲学と倫理学を統合すること」（環境思想・教育研究会）、「人間を問うことの現代的意味」、「承認論の視点から見た遺族ケアの哲学的考察－HBV 遺族調査を踏まえて－」（総合人間学会）、など 研究テーマ：福祉と共生の哲学		
ゼミナール概要			
キーワード：生命、老い、病、共生、倫理			
目的、内容、方法等：本ゼミは、様々な視点から死について考えることを通して、生きることについて理解を深めることを目的とします。現代社会は、急激に恒例化していますが、死を起点にして、老いや病気を考えていくことは、成長ではなく＜成熟＞を目指す現代の社会においては特に重要なことであります。死については医療倫理を含む生命倫理でも重要なテーマとなっています。本ゼミでは、死を起点として、そこから人間や社会の成熟とは何かを考えていきます。映像や書籍を素材に、議論していきたいと考えています。また、ゲスト講師を招くなど、様々な視点から、生と死の倫理について学んでいきます。 専門演習Ⅰ：現代社会の老いや病気、そして死に関する様々な「問題」について、文献などを参考にしながら、自分で考え、説得的に意見を表明できることを目指します。「問題」はあらかじめ与えられているものではなく、自分の関心を深めていく中で生まれそして深めていくことができます。「問題」を見出し、深め、自分なりに整理し、意見を表明するための練習を行います。できたら、卒論に向けてのテーマを発見できると良いかと思ひます。 専門演習Ⅱ：卒論の作成が中心になります。前期は、中間発表を行い、自分なりにテーマや内容について深めていきます。 専門演習ⅠでもⅡでも、議論の時間をできるだけ多く取りたいと思ひます。議論をしていく中で、自分が気づいていないことを思いがけなく発見することができます。また、卒論も自分一人で書くというよりも、ゼミのメンバーから様々な意見をもらいながら、書き進めていく方がより良いものとなります。 授業計画： 専門演習Ⅰでは、前期は、文献購読を中心に進めていきます。文献については、初回に決めます。文献についてのレジュメを作成し、報告をします。また、適宜、映像文献を用いたり、ゲスト講師の方にお話をいただきます。後期は、自分の関心から深めたテーマについて口頭発表を行います。前期と後期にそれぞれ一回ずつ発表をすることになります。参加者間で、議論したことを、次週までにコメントを記した短い文章（600字程度）を書きます。自らの意見を簡潔に文章化できることがねらいですが、これは考えを深める上でも重要な作業です。専門演習Ⅱでは、卒論の作成が中心になりますが、卒論提出までに各自2回の中間発表を行います。また、ゼミ時間外の個別指導も適宜行ひます。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミでは参加者相互のコミュニケーションがとても大切になります。コミュニケーションを通して人は自己を形成していくものと考えます。異なる意見を尊重しながら、自己吟味をしていく。こうして互いを深められるよう積極的に参加してください。			